

2016年度 書物との出会い—学問することの喜び(イ) 近代ヨーロッパと現代 リーディングリスト

(1) 梅溪 昇 (2007年)『お雇い外国人——明治日本の脇役たち』講談社学術文庫、972円、ISBN: 9784061598072

(2) 学問領域: 歴史学

(3) キーワード: 明治維新、日本の近代化

(4) 難易度 1

(5) 「お雇い外国人=日本を世界一流レベルに引き上げるために雇われた外国人」と言って思い浮かべるのは誰だろう。ハリルホジッチ(サッカー日本代表監督)か、エディー・ジョーンズ(元ラグビー日本代表HC)か。平成の世の彼らだけでなく、明治時代の「お雇い外国人」たちの奮闘努力っぷりも、ぜひ知って欲しい!

(6) 推薦者: 山本珠美(生涯学習教育研究センター)

(1) 中山茂(2013年)『パラダイムと科学革命の歴史』講談社学術文庫、1,180円、ISBN: 9784062921756

(2) 学問領域: 歴史学

(3) キーワード: 学問、科学革命、パラダイム

(4) 難易度 3

(5) 日本の大学は、近代国家に必要な(主にヨーロッパ起源の)学問を輸入し、国家の発展に必要な人材を育成するため、明治維新後に作られました。大学に入学したみなさんも、これから学問をすることになるわけですが、そもそも「学問」とは、あるいは「研究」とは、どのようなものでしょうか。本書は「学問の世界」を深く知るためのガイドブックとしておススメです。

(6) 推薦者: 山本珠美(生涯学習教育研究センター)

(1) 吉見俊哉(2010年)『博覧会の政治学——まなざしの近代』講談社学術文庫、絶版

(2) 学問領域: 歴史学、社会学、政治学

(3) キーワード: 異文化交流、博覧会

(4) 難易度 2

(5) 博覧会は、異文化と出会う場として、19世紀半ば以降日本を含む各地で開催されました。しかし、それは対等な者同士の出会いとは言いがたく、政治的にバイアスががかかっているものでした。この本は推薦者が大学生の時にワクワクしながら読んだ、とっておきの一冊です。

(6) 推薦者: 山本珠美(生涯学習教育研究センター)

(1) ヤーコブ・ブルクハルト(2002年)『イタリア・ルネサンスの文化』(1)〈2〉(訳)柴田治三郎、中公クラシックス、〈1〉(1,512円) ISBN-10: 4121600266、〈2〉(1,458円) ISBN-10: 4121600290

(2) 学問領域: 歴史学、哲学・倫理学・論理学、芸術、文学

(3) キーワード: ルネサンス(再生、復興)、近代文化、古代文化、人文主義、イタリア的

(4) 難易度: 1

(5) 高校でルネサンスが近代文化の始まりであることを習ってきたと思います。この見方は、今から150年以上前に書かれたこの歴史書から始まります。今読んでも瑞々しいエピソードに溢れています。著者はルネサンス、従って近代文化の明を描くとともに、暗も示しています。この明と暗を通じて、今の私たちがどう生きていくかにも示唆を与えてくれます。

(6) 推薦者: 中谷博幸(教育学部)

- (1) ゲーテ (2003 年) 『ゲーテ全集 7 ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』 (訳) 前田敬作・今村孝、潮出版社、2160 円、ISBN : 978267016677
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、文学、歴史学
- (3) キーワード : 教養、ドイツ、人文主義
- (4) 難易度 2
- (5) ドイツにおける「教養小説」の記念碑的著作と称される作品。主人公のヴィルヘルム・マイスターは、さまざまな人物との接触 (ときには恋愛も) しながら人間的に成長していく。多様な登場人物やゲーテの美しい文章も魅力だが、この本を読みながら、ゲーテが「教養」という概念で何を考えていたのか、思い巡らすのも面白い。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) カント (2006 年) 『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他 3 編』 (訳) 中山元、光文社古典新訳文庫、700 円、ISBN : 9784334751081
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 平和、歴史、啓蒙
- (4) 難易度 2
- (5) 「永遠平和のために」では、常備軍の廃止、国家の連合を視野に入れた平和論が展開される。最近の安保法案をめぐる議論でもしばしば引用される古典。何のために「永遠平和」という理念を掲げる必要があるのか、丁寧に論じており学ぶところが多い。その他、「自分で考える勇気を持って！」と読者を鼓舞する「啓蒙とは何か」も、大学生になったからには是非読んでもらいたい作品。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) ニーチェ (2009 年) 『善悪の彼岸』 (訳) 中山元、光文社古典新訳文庫、1058 円、ISBN: 9784334751807
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学、文学
- (3) キーワード : キリスト教、近代、人文主義 (批判)、道徳 (批判)
- (4) 難易度 3
- (5) ニーチェはこの著作で、近代哲学や近代の自然科学が、いかにキリスト教の伝統に呪縛されているかを暴きだす。平等、進歩といった近代的理念を批判的にとらえるための強力な武器を供給してくれる作品。内容は決して簡単ではないが、チャレンジする価値あり。まずは「解説」「本書の読み方について」から読むことをおすすめします。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) J・S・ミル(2012 年) 『自由論』 (訳) 斉藤悦則、光文社、1145 円、ISBN:9784334752507
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学、政治学、歴史学
- (3) キーワード : 自由、功利主義、幸福、権利
- (4) 難易度 2
- (5) 功利主義の立場から自由を最大限に認めあうことが個人にとっても社会にとっても有益であることを論じた本。「自由」について考えるための最も基本になる必読の名著である。
- (6) 石川徹 (教育学部)

- (1) J・S・ミル (1960年) 『ミル自伝』 (訳) 朱牟田夏雄 ISBN: 9784003411681 絶版
- (2) 学問領域: 哲学・倫理学、文学、政治学、教育学
- (3) キーワード: 功利主義、幸福、教育
- (4) 難易度 2
- (5) 自分の人生を誠実に振り返って書かれた最良の自伝の一つ。他分野にわたり大きな業績を残したミルの入門書としても役立つ。
- (6) 石川徹 (教育学部)

- (1) 直江清隆・越智貢 (編) (2012年) 『自由とは』 (高校倫理からの哲学 4) 岩波書店、1620円、ISBN:9784000285445
- (2) 学問領域: 哲学・倫理学、政治学、教育学
- (3) キーワード: 自由 運命、社会、必然性
- (4) 難易度 2
- (5) 自由の多義性を対立項をはっきりさせることで明示し、それぞれ身近なところから、どのような問題があるのかを明示して考えさせてくれる。少しずつ考えながら読むことをすすめる。
- (6) 石川徹 (教育学部)

- (1) ニコラス・フィリップソン (2014年) 『アダム・スミスとその時代』 (永井大輔訳) 白水社、3024円、ISBN: 9784560083697
- (2) 学問領域: 思想史、歴史学
- (3) キーワード: アダム・スミス、スコットランド啓蒙
- (4) 難易度 2
- (5) スミスの哲学とその成り立ちを社会的、知的環境との関連において描き出した評伝。
- (6) 推薦者: 山本陽一 (法学部)

- (1) 山崎怜 (2005年) 『アダム・スミス』 研究社、1000円、ISBN :9784327352165
- (2) 学問領域: 思想史
- (3) キーワード: アダム・スミス、道徳感情論、国富論
- (4) 難易度 2
- (5) スミスの生い立ちや著作の成立が丹念に愛情をこめて書かれている。
- (6) 推薦者: 山本陽一 (法学部)

- (1) 阿部謹也 (2006年) 『ヨーロッパを見る視角』 岩波現代文庫、1296円、ISBN :9784006031459
- (2) 歴史学
- (3) キーワード: 社会史、世間
- (4) 難易度: 2
- (5) 西ヨーロッパの歴史の底流にある人間関係の変容に注目した入門書。
- (6) 推薦者: 山本陽一 (法学部)

- (1) 岡倉覚三 (1961年) 『茶の本』 村岡博訳、岩波文庫、454円、ISBN:978-4003311516
- (2) 学問領域：芸術、歴史学
- (3) 千利休、生活文化
- (4) 難易度 1
- (5) 戦後スイスのグラフィック・デザイン界の重要人物エミール・ルーダーがデザイン学校の教え子達に授業の合間に読むことを薦めたという、西欧文明批判にして茶道の古典的名著。有名な利休と秀吉のくだりも出てきます。
- (6) 白沢 正 (白沢デザイン代表)

- (1) 小川環樹訳 (1997年) 『老子』 中公文庫、596円、ISBN: 978-4122028142
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学、芸術
- (3) 無用の用、東洋思想
- (4) 難易度 1
- (5) 一般には読むと心が軽くなる癒しの思想のイメージがあるかもしれませんが、実際に読むとなかなか風刺の効いた過激な思想だとわかる。また『無用の用』の章はグラフィック・デザイナーにとって特別な示唆を与えてくれる章です。
- (6) 白沢 正 (白沢デザイン代表)

- (1) Michael Kroeger (2008年) 『ポール・ランド、デザインの授業』 ビーエヌエヌ新社、絶版、ISBN: 978-4861005848
- (2) 学問領域：芸術
- (3) グラフィック・デザイン
- (4) 難易度 1
- (5) IBM や ABC のロゴマークを作ったことで有名なグラフィック・デザイナー、ポール・ランドのデザイン学校での講義録です。彼の「デザインとは関係である。形と中身の関係だ。」という言葉は深層的を得た意見です。
- (6) 白沢 正 (白沢デザイン代表)

2016年度 書物との出会いー学問することの喜び (口) 男と女 リーディングリスト

- (1) 岩上真珠 (2013) 『ライフコースとジェンダーで読む家族 (第3版)』有斐閣、2,052 円、ISBN:978-4-641-17396-5
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：ライフコース、ジェンダー、家族、近代家族
- (4) 難易度 1
- (5) 少子高齢化、個人化が進む現代社会において、家族はどう変化してきたか、ライフコースとジェンダーの視角から解説した現代家族社会学の入門書。この書物を契機として、これからの個人の生き方と、家族生活のあり方という、個人の生涯にとっても重要な問題を、ぜひ自分の問題としてとらえ考察してほしい。
- (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)

- (1) 上野千鶴子 (2010) 『女ざらいーニッポンのミソジニー』紀伊国屋書店、1,620 円、ISBN:978-4-314-01069-6
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：ミソジニー、性の二重基準、自己嫌悪、現代社会
- (4) 難易度 3
- (5) 男性にとっての「女性嫌悪」、女性にとっての「自己嫌悪」に着目して、様々な角度から現代社会を解説しながら、「男社会」の現実を解剖していく書である。ジェンダー研究のパイオニアとされる著者が、「どんなに不快であれ、そこから目をそむけてはならない現実」として書き継ぎ、「それを知ることによって、それがどんなに困難でも、その現実を変えられる可能性がある」とし、「共感も反感も含めて、本書には波紋を拡げてほしい」と言っている。
- (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)

- (1) 水無田気流 (2015) 『「居場所」のない男、「時間」のない女』日本経済新聞出版社、1,404 円、ISBN:978-4-532-16955-8
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、男性問題、ワークライフバランス、サラリーマン家庭
- (4) 難易度 2
- (5) 現代の日本人男性は、仕事以外の人生の選択肢に乏しく「世界一孤独」とされ、日本人女性は、婚活・妊活などのタイムリミットに追われ続けて自分の時間が確保できない状況におかれている。サラリーマンの夫と妻という現代の家族のありように、本当に幸福なのかと疑問を投げかけ、男女ともに幸福になるための方法論を展開している。現在の気鋭の社会学者による書であり、かなり個性が強いので、十分に読み込んだ上でしっかり反論してもらいたい。
- (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)

- (1) 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 (2011) 『女性学・男性学入門改訂版—ジェンダー論入門』、2,052 円、ISBN : 4641124280
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、女性学、男性学
- (4) 難易度 1
- (5) 「女性学」は聞いたことがある人もいるかもしれないが、「男性学」はどうだろうか？本書は、わが国における男と女に関する問題を論じた入門書であり、これまで意識してこなかった問題を理解するために役立つだろう。
- (6) 推薦者 : 高田 純 (保健管理センター)

- (1) 森岡正博 (2009) 『最後の恋は草食系男子が持ってくる』、マガジンハウス、1,296 円、ISBN:483871999X
- (2) 学問領域 : 哲学
- (3) キーワード : コミュニケーション、恋愛学
- (4) 難易度 1
- (5) 心が優しく、恋愛に奥手な男性たちのことは「草食系男子」と呼ばれ、一時期流行語となった。草食系男子は増えているのか？彼らと恋をするには？解説とインタビューから彼らがどう考え、何を望んでいるのか明らかになるだろう。
- (6) 推薦者 : 高田 純 (保健管理センター)

- (1) 河合隼雄 (2008) 『とりかえばや、男と女』新潮社、1,296 円、ISBN:4106036169
- (2) 学問領域 : 心理学
- (3) キーワード : ジェンダー、深層心理
- (4) 難易度 2
- (5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは？「女らしさ」とは？物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。
- (6) 推薦者 : 高田 純 (保健管理センター)

- (1) 阿部謹也 (2007) 『西洋中世の男と女』ちくま学芸文庫、1,399 円、ISBN : 9784480091024
- (2) 学問領域 : 歴史学
- (3) キーワード : 結婚、性愛、キリスト教
- (4) 難易度 2
- (5) 愛とは何かという観念的な話ではなく、その実態について関心がある人にとっては面白い本だと思う。中世キリスト教の支配下における性愛と結婚の実態について、王侯から民衆まで、社会各層の事情を知ることができる。
- (6) 推薦者 : 齊藤和也 (経済学部)

- (1) プラトン (2013)『饗宴』中澤務訳、光文社文庫、1,008 円、ISBN : 9784334752767
- (2) 学問領域：哲学
- (3) キーワード：エロス、アイデア、少年愛
- (4) 難易度 2
- (5) 人間は美しいものを求める存在であり、それに向かわせる衝動がエロスである。このような意味での愛について考えようとするときに、この本は明確な観念を与えてくれる。この本は、プラトン自身によるアイデア論への入門書でもあるが、少年愛など当時の恋愛事情についても情報を与えてくれる。
- (6) 推薦者：斉藤和也（経済学部）

- (1) 納富信留『プラトン『饗宴』2013年7月(100分 de 名著)(ムック)』NHK 出版、絶版、ISBN:978-4142230280
- (2) 学問領域：哲学
- (3) キーワード：エロス、アイデア、少年愛
- (4) 難易度 1
- (5) プラトンの『饗宴』を扱った NHK 番組「100 分 de 名著」のテキスト。日本のプラトン研究をリードする研究者による正確で分かりやすい解説書。哲学が苦手という人にはまず手にとってほしい一冊。哲学は意外に面白いと思えるはず。
- (6) 推薦者：斉藤和也（経済学部）

- (1) 佐伯順子 (2008)『「愛」と「性」の文化史』角川書店、1,620 円、ISBN:9784047034310
- (2) 学問領域：文学、芸術
- (3) キーワード：恋愛、性
- (4) 難易度 2
- (5) 「愛」や「性」といった言葉は時代によって概念が異なるという。本当かどうかは分からない。しかし、確かに我々の心と行動は言葉によって影響を受けるから、性欲や恋愛という言葉がない時代には、人々の〈恋〉は違ったものだったかもしれない。本書は、近代的恋愛の成立を——「性欲」の発見、「色情」から「恋愛」への変遷、「貞操」の崩壊、という仮説において大胆に展開し、議論を巻き起こした。
- (6) 推薦者：渡邊史郎（教育学部）

- (1) ルネ・ジラール (2010)『欲望の現象学』古田幸男訳、法政大学出版局、4,320 円、ISBN:4588099280
- (2) 学問領域：文学、哲学
- (3) キーワード：恋愛、現象学
- (4) 難易度 3
- (5) ジラールは言う、我々の恋愛は常に「三角関係」である。常に、他人が好きな人を好きになる、いや欲望する。我々は欲望の奴隷である……と。オンリー・ユー・フォーエバー、不倫は許せない、友だちに彼氏（女）盗られた、などの思いを抱えて苦しんでいる若者の皆さんにぴったり。
- (6) 推薦者：渡邊史郎（教育学部）

- (1) ヴェルナー・ゾンバルト (2000) 『恋愛と贅沢と資本主義』講談社、1,242 円、ISBN : 4061594400
- (2) 学問領域 : 文学、哲学、経済学、歴史学
- (3) キーワード : 恋愛、資本主義、奢侈
- (4) 難易度 3
- (5) 鏡、クッション、白絹カーテン、淡青色ペティコート、……繊細になってゆく奢侈は、「動物的な本能」に仕える。ゾンバルトは、金持ち達の暇つぶしの恋愛やセックスが、海外との貿易——資本主義の動力でもあったと断ずる。恋せよ金持ちども、経済成長のために。
- (6) 推薦者 : 渡邊史郎 (教育学部)

- (1) 天野正子編 (2009) 『ジェンダーと教育 (新編 日本のフェミニズム 8)』岩波書店、絶版、ISBN : 4000281437
- (2) 学問領域 : 教育学、社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、教育
- (4) 難易度 3
- (5) 私たちの物の見方は、これまで受けてきた教育に大きく影響されている。それはもちろん男と女に対する考え方についてもいえる。この一冊を読めば、どういった面で自分がとらわれているのか知ることができ、新たな自分に出会うことができるのではないだろうか。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 草柳千早 (2011) 『<脱・恋愛>論』平凡社、821 円、ISBN : 4582856101
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : 恋愛、社会学
- (4) 難易度 2
- (5) 身近な事象を題材に社会学的に物事を見る面白さを教えてくれる本。筆者によれば、「純愛」は怖いし、恋愛・結婚はゲームだし、「モテる」とは自分を見失うことらしい。恋愛に興味のある人もない人も一読の価値あり。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 伊藤公雄・牟田和恵編 (2015) 『ジェンダーで学ぶ社会学 (全訂新版)』世界思想社、1,944 円、ISBN : 4790716686
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、社会学
- (4) 難易度 2
- (5) 「育つ」「学ぶ」からはじまり「シェーカツする」「愛する」「ケアする」等、この本ではトピックごとにジェンダーについて学ぶことができる。社会学領域におけるジェンダー論の基本はもちろんのこと、変化球も組み込まれており、何かしらの新しい視点を提示してくれるはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)